

令和 6 年 6 月 4 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K10571

研究課題名（和文）重度療養者のQOLを生み出す訪問看護実践のプロセスとアウトカム指標の開発と検証

研究課題名（英文）Development and validation of process and outcome for home health care nurses that produces an improvement in the quality of life of caregivers.

研究代表者

谷垣 静子 (Tanigaki, Shizuko)

岡山大学・保健学研究科・特命教授

研究者番号：80263143

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、重度療養者（がん終末期患者）を対象に、QOLを生み出す訪問看護「活動」のプロセスとアウトカムに着目して分析を行い、訪問看護活動の見える化を測る指標の開発と検証を行うことである。研究の結果、訪問看護師は、自宅という住み慣れた場の力を借りつつ、生活の営みの一つである清潔ケアを大切に、本人および家族のこころが安定するよう聴く態度に徹し、本人には自由に過ごしてもらい、家族には状況を見極め早めに声をかけることを行っていた。これらの看護実践によって、在宅での安定した療養を継続し、本人も家族も満足のいく生活を送ることを支援することが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果の社会的意義は、2025年問題に向けて、全ての人々が安心・安全の環境の中で自分らしく生き、終える地域社会を目指す一翼を担っている訪問看護活動を可視化できることである。また、研究の意義は、重度療養者とその家族のQOLを生み出す訪問看護活動のプロセスとアウトカムに着目して分析し、見える化の指標を開発することで、訪問活動の質向上に貢献することである。

研究成果の概要（英文）： This study aimed to clarify the nursing practice of homecare nurses with regard to end-of-life support for terminal cancer patients and their families. The nursing care provided by homecare nurses to cancer patients who lived longer than their life expectancy was summarized into four categories: (1) Value the basic care of cleaning the body; (2) Listen with a sympathetic attitude that encourages emotional stability of the patient and family members; (3) Anticipate risks and allow the patient freedom in the home when providing nursing care; and (4) Make efforts to understand the situation of family caregivers and talk to them.

The homecare nurses were respectful of the wishes of individual patients and their families and supported their ability to live through basic hygiene care.

研究分野：看護学・在宅看護学領域

キーワード：訪問看護 重度療養者 訪問看護師 がん終末期患者

1. 研究開始当初の背景

本研究の問題意識は、在宅看護が人々の生活の質向上に資する具体的な成果をしめしているかという点にあった。在宅看護の現場では、住み慣れた家で過ごすことで、満足した最期を迎えられた、穏やかな死は次世代にいのちのバトンが受け継がれた等の声が聞かれる。しかし、学術的な成果については蓄積が十分示されているとは言えない。そこで、在宅看護の一翼を担っている訪問看護活動に注目した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、重度療養者を対象に、QOLを生み出す訪問看護「活動」のプロセスとアウトカムに着目して分析を行い、訪問看護活動の見える化を測る指標の開発と検証を行うことである。

3. 研究の方法

(1) 重度療養者に対するベストプラクティス事例の収集：主に文献検討を行った。重度療養者は、非がん患者、がん患者等を含め、医療依存度の高い療養者として、文献を集めた。その結果、重要なキーワードとして、「意思決定支援」「満足度」が抽出できた。

(2) 重度療養者のケアのプロセス/アウトカムの要素を明らかにする：質的記述的研究研究計画の段階では、アンケート調査を検討していた。しかし、量的な研究では、具体的なケアのプロセスを明らかにすることは難しいと判断をした。そこで、事例研究の方法を活用することとした。研究の対象は、臨床経験豊富な専門看護師および熟練看護師とした。ベナーは中堅レベルを3～5年ほどケアをした看護師としている。今回は5年以上の看護実践のある看護師とした。データ収集は、インタビューガイドを用いて質的記述的研究を用いた。インタビュー前には、研究参加者の個別情報（看護経験年数、看取り件数など）および事例の療養者の経過を簡潔にシートにまとめてもらった。

(3) 重度療養者のQOLを生み出すプロセス指標/アウトカム指標づくり

4. 研究成果

(1) 文献検討のから、重度療養者のベストプラクティスにおいては、病状が進行するなかでも、最期の時をどのように過ごしたいか、満足感を満たす関りとはなど、本人・家族の思いを測りながら看護を提供するプロセスを明らかにする必要があることが示唆された。

(2) 質的研究を実施した。5名の訪問看護師を対象にインタビューを実施した。重度療養者のQOLを生み出す訪問看護活動を明らかにしたいと考えていたが、重度療養者には幅があることの観点から、事例の対象をがん終末期患者とした。そして、がん終末期患者でも、余命宣告を受けた在宅療養者が、余命よりも延命した事例に焦点を当て、看護プロセスを語ってもらった。その結果、看護内容は4つにまとめられた。①身体をきれいにするケアを大切にす ②聴く態度に徹することで、患者や家族のこころの安定を図る ③家では自由に過ごしてもらい、リスクを予測しながら見守る ④介護する家族の置かれている状況を見極め、早めに声をかけるであった。

【身体をきれいにするというケアを大切にす】は、単に身体を清潔にするだけではなく、爽快感を生み出し、生きる意欲を高めることにもつながる。また、家族は最期の時をきれいな体の状態で迎えて欲しいと願っている。本人にとっても、家族にとっても満足の高いケアである。【聴く態度に徹することで、患者や家族のこころの安定を図る】は、単純に聴くと

いう行為ではなく、それは、語る側からすれば、ことばを受け止めてもらったという安心につながる。家族も同様に、がん患者と残された時間をともに生きる者として、不安な気持ちで過ごしている。そのなかで、訪問看護師から親身に話を聞いてもらえることは、家族のこころの安定につながる。【家では自由に過ごしてもらい、リスクを予測しながら見守る】は、病院での生活の中で感じていた制限から開放されて自由に過ごされている患者を、リスクを考えながらも見守ることである。【介護する家族の置かれている状況を見極め、早めに声をかける】は、終末期がん患者を看取る家族の困難には、病状の急な変化時の対応が分からないことや、患者の死を認めたくない気持ちを抱えている。患者と家族は、在宅で看取するという覚悟をしていますが、患者の急な変化に家族はどう対応したらよいかわからず、苦悩している。訪問看護師は、患者の病状変化に注意を払うと同時に家族が感じている患者の病状不安に対処し、家族が最期まで看取れるよう注視した支援であった。

(3) QOLを生み出すプロセス指標/アウトカム指標づくりは、検討段階に入っている。今回の事例検討では、具体的な看護活動の側面が浮き彫りにされた。その結果、住み慣れた家という場の力を借りつつ、本人も家族の状態を安定させるための働きかけであった。今後、事例数を増やし、アウトカムを明確にしたいと考える。指標が完成したなら、訪問看護活動のなかで検証を試みる予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 久保田真美、谷垣静子	4. 巻 20(4)
2. 論文標題 認知症高齢者の独居生活継続アセスメント指標の開発～デルファイ法による妥当性の検討～	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本認知症ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 532-544
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小池愛弓、岡田麻里、長江弘子、仁科祐子、坂井志麻、片山陽子、乗越千枝、谷垣静子、酒井昌子、彦聖美	4. 巻 25(2)
2. 論文標題 継続看護マネジメント教育プログラムにおける看護職の学びの特徴	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本在宅ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 216-224
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仁科祐子、谷垣静子、長江弘子、岡田麻里	4. 巻 41
2. 論文標題 2年以上の勤務経験を有する新卒訪問看護師における自律的判断の様相	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本看護科学学会学会誌	6. 最初と最後の頁 683-691
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5630/jans.41.683	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 谷垣静子、仁科祐子、長江弘子、乗越千枝	4. 巻 43(4)
2. 論文標題 熟練看護師が行った在宅療養支援における看護実践 ～連携に注目して～	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本プライマリ・ケア連合学会誌	6. 最初と最後の頁 116-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14442/generalist.43.116	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 内田史江、谷垣静子	4. 巻 40
2. 論文標題 訪問看護師のがん患者ターミナル看護支援尺度の開発と信頼性・妥当性の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本看護科学学会誌	6. 最初と最後の頁 91-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5630/jans.40.91	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木千枝、谷垣静子	4. 巻 23
2. 論文標題 認知症の人にとっての生活における安心の概念分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本在宅ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 73-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仁科祐子、長江弘子、谷垣静子	4. 巻 39
2. 論文標題 日本の訪問看護師の行う訪問看護実践における判断の概念分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本看護科学学会誌	6. 最初と最後の頁 74-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5630/jans.39.74	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木千枝、谷垣静子	4. 巻 23
2. 論文標題 認知症の人にとっての生活における安心の概念分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本在宅ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 73-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内田史江、谷垣静子	4. 巻 38
2. 論文標題 在宅療養がん患者のターミナル期における訪問看護支援に影響を及ぼす要因の検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本看護科学学会誌	6. 最初と最後の頁 124-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5630/jans.38.124	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tanigaki Shizuko, Kishida Kenshaku, Fujita Akihito	4. 巻 45
2. 論文標題 A preliminary study of the effects of a smile-supplement robot on behavioral and psychological symptoms of elderly people with mild impairment	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of humanities and social sciences	6. 最初と最後の頁 19-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳴海幸子、谷垣静子	4. 巻 17(3)
2. 論文標題 介護保険施設で認知症ケアに携わる看護職・介護職の道徳的感受性の検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本認知症ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 560-572
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内田史江、谷垣静子	4. 巻 8
2. 論文標題 在宅終末期患者を支える「家族のコミットメント」の概念分析	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本エンドオブライフケア学会誌	6. 最初と最後の頁 33-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.57506/jseolc.080102	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡田麻里, 長江弘子, 仁科祐子, 片山陽子, 谷垣静子, 酒井昌子, 乗越千枝, 小池愛弓, 坂井志麻, 彦聖美	4. 巻 26(2)
2. 論文標題 継続看護マネジメントを基盤に開発した多職種連携教育プログラムの実施と評価	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本在宅ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 154-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satsuki Obama, Tsuyako Hidaka, Shizuko Tanigaki	4. 巻 24(3)
2. 論文標題 Exploring tacit knowledge based on an expert nurse's practice for stroke patients	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Nursing Philosophy	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/nup.12459	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroki Kato, Takak Iwasaki, Ayako Ko, Yuko Nishina, Shizuko Tanigaki, Chie Norikoshi, Masako Sakai, Mari Ito, Nozomi Harasawa, Keiko Tamura, Hiroko Nagae	4. 巻 -
2. 論文標題 Experiences of dialogue in advance care planning educational programs.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Nursing ethics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/09697330231166086	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計25件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 鈴木千枝, 谷垣静子, 岩田昇
2. 発表標題 軽度認知症の人の生活状況における安心尺度の開発
3. 学会等名 第27回日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷垣静子、中村智香
2. 発表標題 病棟看護師による終末期がん患者の在宅療養移行に向けての支援内容に関する文献検討
3. 学会等名 第5回日本エンドオブライフケア学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷垣静子、執印ひなた、児玉優佳
2. 発表標題 A大学生のACPの認知度
3. 学会等名 第27回日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長江弘子、谷垣静子、坂井志麻、岡田麻里、片山陽子、酒井昌子、乗越千枝、仁科祐子、彦聖美、小池愛弓、川添恵理子
2. 発表標題 継続看護マネジメントを活用した多職種チームアプローチ
3. 学会等名 日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 内田史江、谷垣静子
2. 発表標題 訪問看護師のがん患者ターミナル看護支援尺度の開発と信頼性・妥当性の検討
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷垣静子、藤原晶歩
2. 発表標題 意思を汲みとることが困難な療養者家族の代理意思決定を支援する
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷垣静子、荒木美咲
2. 発表標題 在宅療養を望む終末期高齢者の家族に生じる倫理的課題と訪問看護師の関わりに関する文献検討
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長江弘子、原沢のぞみ、岩崎孝子、坂井志麻、池田真理、宮下光令、仁科祐子、谷垣静子、酒井昌子、田村恵子、竹之内沙弥香、加藤裕規、片山陽子、乗越千枝、渡邊賢治、高紋子
2. 発表標題 市民と専門職で協働する日本型対話促進ACP介入モデルの構築とエビデンスの確立
3. 学会等名 日本看護科学学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 仁科祐子、長江弘子、谷垣静子、岡田麻里
2. 発表標題 若手訪問看護師の看護判断の基盤にある姿勢
3. 学会等名 日本地域看護学会 第23回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 仁科祐子、長江弘子、谷垣静子、岡田麻里
2. 発表標題 新卒訪問看護師における「一人前レベル」の自律的判断
3. 学会等名 日本看護科学学会 第40回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 仁科祐子、長江弘子、谷垣静子
2. 発表標題 訪問看護実践における判断の概念分析
3. 学会等名 日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 江田純子、谷垣静子、菅崎仁美、唐井幸子、井上純子、栗本一美、柴田由美子、宗宮昌子
2. 発表標題 新卒訪問看護師の成長過程
3. 学会等名 岡山県保健福祉学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡田麻里、仁科祐子、長江弘子、谷垣静子
2. 発表標題 在宅生活を望む心不全終末期の本人と家族を支える多職種チームアプローチ
3. 学会等名 日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長江弘子, 谷垣静子, 酒井昌子, 片山陽子, 岡田麻里, 乗越千枝, 川添恵理子, 照井レナ
2. 発表標題 生活と医療を統合する継続看護マネジメント
3. 学会等名 日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fumie Uchida, Shizuko Tanigaki
2. 発表標題 Factors influencing home-visit nursing support for end-stage cancer patients receiving home care in japan
3. 学会等名 World academy of nursing science The 6th international nursing research conference
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuko Nishina, Shizuko Tanigaki, Hiroo Nagae, Mari Okada
2. 発表標題 Autonomous nursing judgment by young home healthcare nurses during nursing practice in Japan
3. 学会等名 World academy of nursing science The 6th international nursing research conference
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡本亜紀、谷垣静子
2. 発表標題 精神科病院で働く看護師の包括型地域生活支援プログラムへの関心
3. 学会等名 日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 江田純子、谷垣静子、柴田由美子、栗本一美、井上純子、菅崎仁美、唐井幸子、宗宮昌子
2. 発表標題 新卒訪問看護師の成長過程
3. 学会等名 岡山県保健福祉学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長江弘子、谷垣静子、酒井昌子、片山陽子、岡田麻里、乗越千枝、川添恵理子、照井レナ
2. 発表標題 生活と医療を統合する継続看護マネジメント
3. 学会等名 日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 栗本一美、谷垣静子、柴田由美子、前川珠木、國富優香、菅崎仁美、井上純子、江田純子
2. 発表標題 新卒者が訪問看護ステーションに就職できる～訪問看護ステーションの育成力アップ研修
3. 学会等名 岡山県保健福祉学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷垣静子、脇楓、山下琴美
2. 発表標題 コロナ禍における人工呼吸器装着のALS療養者を在宅で介護する家族の介護継続意思
3. 学会等名 回日本エンドオブライフケア学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 谷垣静子、中川明子、山下琴美
2. 発表標題 筋委縮性側索硬化症患者および家族の人工呼吸器装着時の意思決定支援に関する文献検討
3. 学会等名 回日本エンドオブライフケア学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 谷垣静子、河本莉奈、山下琴美
2. 発表標題 終末期がん患者を看取る家族の心情や苦悩に関する文献検討
3. 学会等名 回日本エンドオブライフケア学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 谷垣静子、仁井名沙樹、山下琴美
2. 発表標題 訪問看護師の「個別性のある看護」の実践内容
3. 学会等名 日本在宅ケア学学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 内田史江、谷垣静子
2. 発表標題 在宅終末期患者を支える「家族コミットメント」の概念分析
3. 学会等名 日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 長江弘子編 谷垣静子ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 医歯薬出版株式会社	5. 総ページ数 116
3. 書名 継続看護マネジメント 第2版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	長江 弘子 (Nagae Hiroko) (10265770)	亀田医療大学・看護学部・教授 (32653)	
研究分担者	岸田 研作 (Kishida Kensaku) (30346407)	岡山大学・社会文化科学域・教授 (15301)	
研究分担者	乗越 千枝 (Norikoshi Chie) (70389500)	四天王寺大学・看護学部・教授 (34420)	
研究分担者	仁科 祐子 (Nishina Yuko) (70362879)	鳥取大学・医学部・教授 (15101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------